

住宅防火・防災 キャンペーン

キャンペーン期間

令和5年

9月1日(金)

~21日(木)



老人の日・敬老の日に



「火の用心」の贈り物

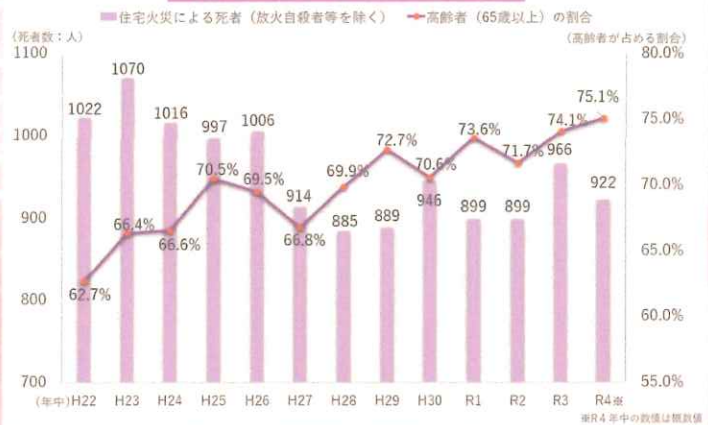
※老人の日:9月15日 敬老の日:9月18日(9月の第3月曜日)

住宅用
火災警報器



すべての住宅に設置が必要な住宅用火災警報器。故障や電池切れで万が一の時に作動しなかったということがないよう、定期的に作動確認し、10年を目安に交換することが大切です。

住宅火災による死者数と高齢者の割合



住宅用消火器



いざという時に備えて住宅用防災機器等(住宅用火災警報器・住宅用消火器・エアゾール式簡易消火具・防災品など)を身近に備えましょう。

防災品



FDMA
住民とともに

総務省消防庁
Fire and Disaster Management Agency

2023年
関東大震災 100年

身近な
防火・防災
プロジェクト

別添

地震火災を防ぐポイント

「地震火災対策きちんと出来ていますか？」

今年、1923年(大正12年)に発生した関東大震災から、100年の節目に当たります。当時は地震の際、大規模な延焼火災が発生しました。もう一度、身の回りを確認し、地震火災を防ぎましょう。

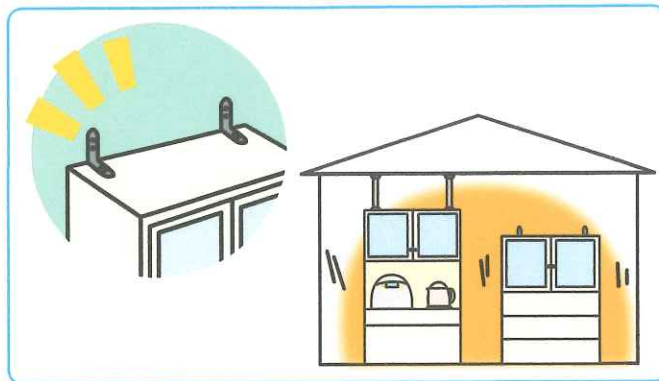


事前の対策

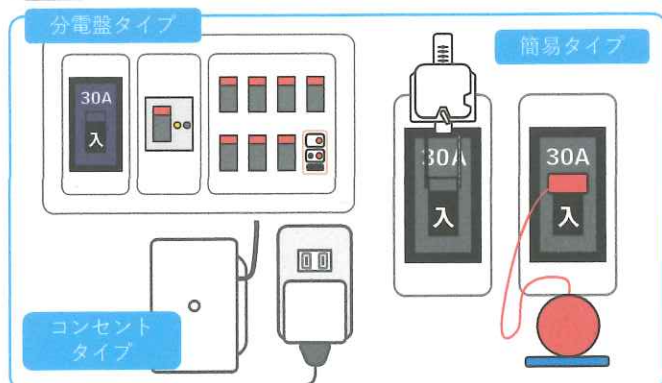
住まいの耐震性を確保しましょう



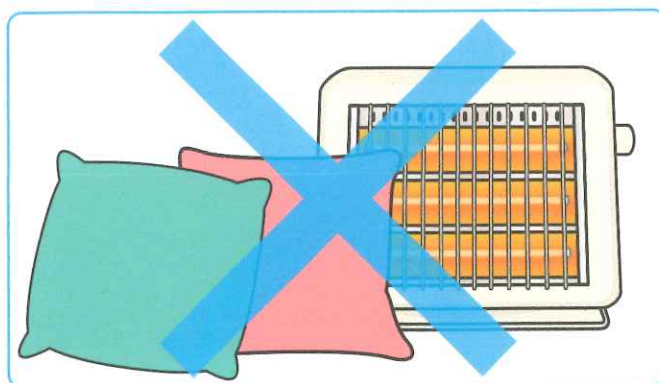
家具等の転倒防止対策（固定）を行いましょう



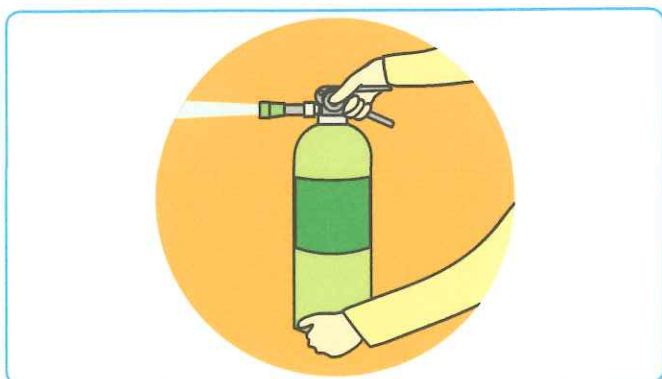
感震ブレーカーを設置しましょう



ストープ等の暖房機器の周辺は整理整頓し、可燃物を近くに置かないようにしましょう



住宅用消火器等を設置し使用方法について確認しましょう



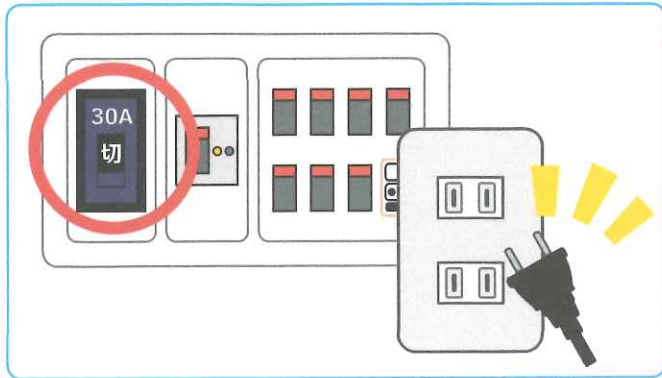
住宅用火災警報器を設置しましょう



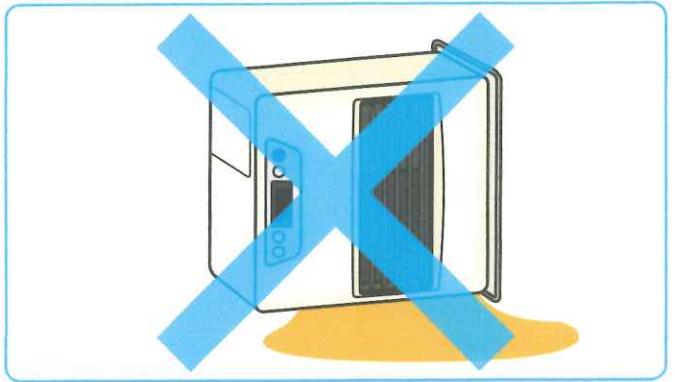
※交換の際は連動型住宅用火災警報器などの付加的な機能を併せ持つ機器へ交換しましょう。
※設置場所については市町村条例で定められています。

地震直後の行動

- 停電中は電気器具のスイッチを切るとともに、電源プラグをコンセントから抜きましょう
避難するときはブレーカーを落としましょう

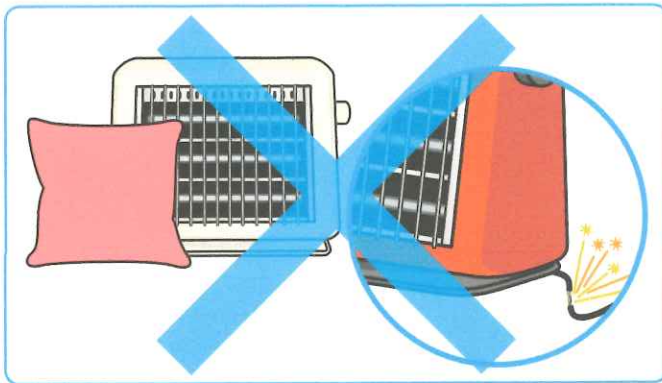


- 石油ストーブや石油ファンヒーターからの油漏れの有無を確認しましょう

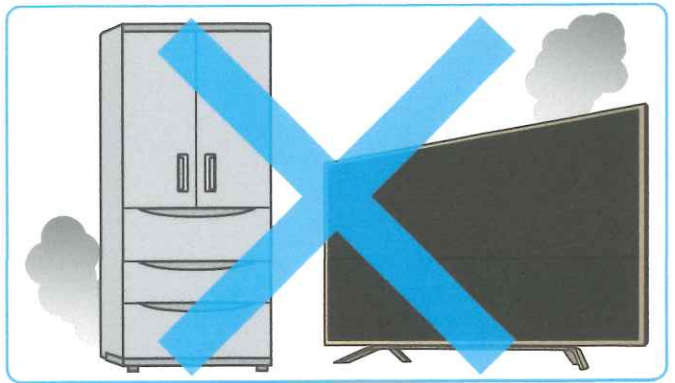


地震発生からしばらくして (電気やガスの復旧、避難からもどったら)

- ガス機器、電気器具及び石油器具の使用を再開するときは、機器に破損がないこと、近くに燃えやすいものがないことを確認しましょう



- 再通电後は、しばらく電気器具に異常がないか注意を払いましょう (煙、におい)



日頃からの対策

- 住宅用火災警報器の定期的作動確認を行い、10年を目安に新しいものに取替えましょう



- 地域の防災訓練へ参加するなどし、発災時の対応要領の習熟を図りましょう



お問い合わせ先



総務省消防庁

Fire and Disaster Management Agency
<https://www.fdma.go.jp/>